

マーケットの動き（2021年7月26日～7月30日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。28日のFOMC（米国連邦公開市場委員会）では、量的緩和縮小に向けた議論の進展がみられたものの、パウエル議長の会見を受けた量的緩和の継続観測が買い安心感につながりました。

ドイツ国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

投資環境見通し（2021年7月）

長期金利は、米国では方向感を欠き、欧州（ドイツ）では緩やかな上昇

米国：緩和的な金融政策の早期転換に対する警戒感が残りますが、実体経済における供給制約の長期化による景気回復への影響も意識されることから、長期金利は当面、方向感を欠いた動きを予想しています。量的緩和政策の縮小について、8月に予定されている地区連銀主催の経済シンポジウムにおいてFRB議長が実施の可能性を示し、2022年初から開始されることを想定しています。

欧州（ドイツ）：基調的なインフレ率上昇は限定的とみられますが、ワクチン接種の進展に伴う経済活動正常化の動きも材料視されやすく、長期金利は緩やかに上昇すると予想しています。

	7月30日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1ヵ月前比	6ヵ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	1.23	▲0.05	▲0.22	0.16	0.68
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	513.43	▲0.09%	0.45%	3.21%	3.90%

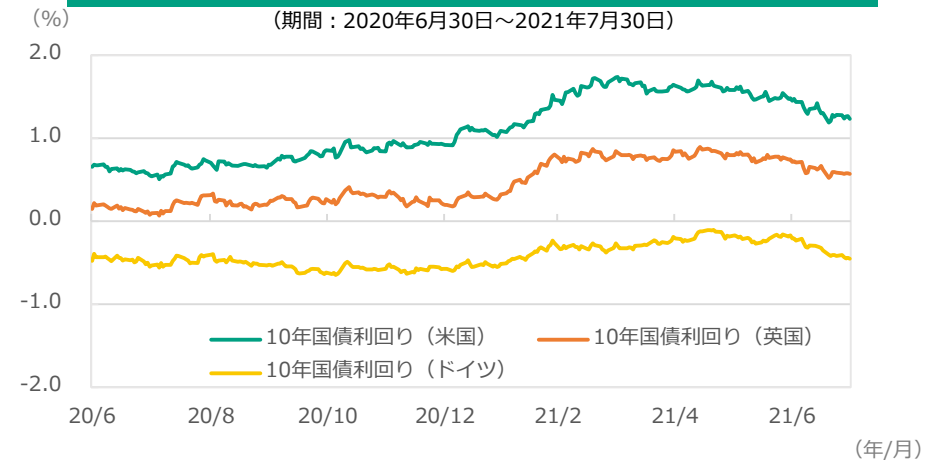
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202107_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移

（期間：2020年6月30日～2021年7月30日）



FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2020年6月30日～2021年7月30日）



※2020年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>